



学校だより (4月号)

高 舟 台

令和2年4月7日

みんなちがって みんないい

校長 倉本 恵

子どもたちの声が響き、春の光の中の学校に輝きが戻ってきました。保護者の皆様、お子様のご入学ご進級おめでとうございます。昨日入学式が行われ、61名の1年生が本校に仲間入りをしました。

職員のみで新年度の準備を進める中で「早く子どもたちに会いたいな。」「ふだんの授業がしたいよね。」という会話がよく聞かれました。あたりまえに学校生活を送っていたことがどんなに幸せだったか、また、子どもがいてこそ「学校」だということを、ひしひしとを感じる今年の春です。



学校再開については、家庭内でずっと過ごす行きづまった状況からの開放を喜ぶ声もあれば、経路のわからない感染が増えているのに再開して子どもの命を守れるのか、という不安の声もあります。各ご家庭でそれぞれ考え方が違いますし、子どもの性格も様々です。家の中で静かに過ごすのが好きな子もいれば、外で思いっきり体を動かすのが好きな子もいます。3つの密（密閉・密集・密接）を避けて感染拡大を防がなければならない、という意識は全員しっかりと必要はありますが、それぞれの考え方の違いを受け入れあって「みんなちがって みんないい」という気持ちでこの状況を乗り切る高舟台の学校やまちであってほしいと願います。

学校再開の20日までに「家で～をしよう。」、そして21日からは「学校で～をしよう。」と、こんな時だからこそ、前向きに見通しをもって進んでいきたいです。

私は先月の学校だよりに「今回学習指導要領が改訂となる理由には、子どもたちにこれからの予測不能な時代を生きる力を育むことがあげられています。」と書きました。ところが、子どもたちにこの力を育む以前に、私たち大人がこの力を発揮することが必要な状況となりました。毎日の報道の中で、アスリートたちが室内でできる運動を配信したり、飲食店がテイクアウトの対応をしたり、バンドナ等でマスクを手作りするいろいろな方法が発信されたり・・・今までにない発想に目を見張ります。横浜市教育委員会も学習指導の配信を行うシステムを新たに立ち上げました。(別紙参照)

明けない夜はありません。やまない雨もありません。栄養や睡眠をしっかりととり、手洗いうがい等に取り組み、夢をもちつつ感染拡大を防ぐ生活を続けていきましょう。



学校教育目標

自分をのばし 友だちと認め合いながら 地域とともに歩む